

自己評価報告書

平成23年 5月 20日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20500545

研究課題名 (和文) スタジアムにおける空間管理とファンのネットワーク形成に関する研究

研究課題名 (英文) Governance of Stadium Spaces and a Network Formed by Fans

研究代表者

高橋 豪仁 (TAKAHASHI HIDESATO)

奈良教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40206834

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 ・ スポーツ科学

キーワード：スポーツ、ファン、スタジアム、空間管理

1. 研究計画の概要

(1)目的：スペクテーター・スポーツは、社会の都市化とともに発展してきた。メガ・スポーツイベントには、大衆が集い、観客によって熱狂的な応援が行われ、祝祭的な空間が演出される。本研究では、日本のプロ野球のスタジアムの空間が如何にして管理されているのかを明らかにするとともに、そうした空間管理に対して、観客が自ら進んで管理され、あるいはその管理に抵抗している状況を、私設応援団・後援会といったファンによる自発的な組織の活動との関連において明らかにすることを目的とする。

(2)内容：

- ①日本のプロ野球の球場で起こった観客の逸脱行為（暴力事件、集団的逸脱行為、グラウンドへの物の投げ込み等）についての文献調査。
- ②日本のプロ野球における球場の安全管理状況に関する調査（インタビュー調査および試合時の安全管理状況の観察）。
- ③私設応援団のネットワーク形成と球団や日本野球機構の管理に対する対応に関する調査（私設応援団の参与観察および団員へのインタビュー）。

2. 研究の進捗状況

(1)過去の球場での観客の逸脱行動について文献研究を行ったところ、広島市民球場に私設応援団の連合組織ができた1977年からは、観客の起こす騒動が少なくなっており、特に観客が暴徒化することがなくなったことが分かった。このことから、私設

応援による組織的な応援が、観客の逸脱的な行動を抑制していることが示唆される。スタジアムにおける集合的応援は、私設応援団が多数の観客を統制することによって可能となっており、集合的応援に参加する観客は、その統制の中で興奮していると言える。大衆としての観客が、ファンの中からボランタリーに形成された私設応援団による統制に自ら従うことによってスタジアムの秩序が保たれているという側面があることが推察される。

(2)人々を規制する手段には「法」、「市場」、「社会規範」、「アーキテクチャ」という4つのモードがある。球場におけるパフォーマンス席の設置は「アーキテクチャ」に相当するものであり、人々が行為を行う空間のあり方に操作を加えることによって、その行動をコントロールすることが可能になるのである。アーキテクチャの権力の特徴は、人々をある特定の行動を取らざるを得なくするシステムによって、人々に自分たちが支配されているという意識を感じさせない点にある。そこでは、一定の行為可能性の枠の中に閉じ込められるのだが、その枠の中では行為選択に制限が加えられておらず、消極的な自由が享受されることになる。アーキテクチャによる行動規制は、スタジアムの空間管理において有効な方法であることが明らかになった。

(3)2000年以降、私設応援団にまつわるトラブルに暴力団との繋がりが指摘され、日本野球機構は警察庁と連携して、2003年に「プロ野球暴力団等排除対策協議会」を立ち上げ、2006年からは私設応援団を許可制とした。私設応援団「神戸中央会」の参与観察から、応援団員は応援許可が与えら

れることを誇りに思っており、京セラドームの警備に携わる警備会社の職員や甲子園球場の職員へのインタビューから、私設応援団が管理されていることが分かった。球団や球場が黙認あるいは疎んじていた私設応援団に対して日本野球機構が正式に認証を与えるというこの一連の動きは、私設応援団が困り込まれる過程として捉えることができる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

前項で記した研究成果について、2009年に国際スポーツ社会学会で口頭発表した。また2011年1月には『スポーツ応援文化の社会学』を上梓することができ、得られた成果は順調にまとめることができている。しかしながら、プロ野球12球団と日本野球機構(NPB)に対して、スタジアムにおける安全管理や特別応援許可規程に関する質問紙調査を郵送法で実施したところ、回答は1球団からしかなく、データの収集に苦慮している。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 球団や NPB が情報提供に協力的でない理由の1つに、ある私設応援団のメンバーが球場入場や応援団方式の応援を禁止した NPB と 12 球団に無効を求めた裁判の存在がある。まさにこの事例は、本研究のテーマであるスタジアム空間の管理とファンのネットワーク形成を検討するのに適した題材である。残された1年弱の研究期間においては、当該の私設応援団の活動についてフィールドワークをして行きたい。
- (2) 日本のプロ野球の球場で起こった観客の逸脱行為について文献研究を行っているが、あわせてヨーロッパのフーリガン研究の成果をレビューし、日本のスタジアム管理と比較検討したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計2件)

- ① TAKAHASHI Hidesato, Governance of Stadium Spaces: The Regulation for Special Cheering Behaviors Authorized by NPB (Nippon Professional Baseball), the ISSA's World Congress of the Sociology of Sport, 2009. 7. 17, Utrecht University
- ② 高橋豪仁、bj リーグ観戦者に関する調査研

究、日本スポーツ産業学会 第 17 回大会、平成 20 年 7 月 13 日、札幌大学

[図書] (計3件)

- ① 高橋豪仁、世界思想社、スポーツ応援文化の社会学、2011年、272ページ
- ② 小島美子 ほか (監修)、朝倉書店、祭・芸能・行事大辞典、2009年、1931ページ (284ページ「応援団」の項目を執筆)
- ③ 橋本純一 (編)、世界思想社、スポーツ観戦学、2010年、306ページ (107-133ページ)